

⑤ 生産基盤

プロジェクト

スマート農業にも対応した基盤整備の推進

目 標

- ・水田整備面積 R5まで：53,966ha → R10まで：54,966ha
(※R6～R10で1,000haの水田を整備)

挑戦する内容

- ・スマート農業の実装を可能とする基盤整備の推進
- ・基盤整備を契機とした担い手への農地集積・集約化の加速化
- ・高収益作物などへの転換を推進する水田の汎用化・畑地化
- ・高品質・安定生産を支える農地の高機能化
- ・農業農村整備プロセス全体でのICTの活用

関係者の声
＝対話

- ・経営規模の拡大や複合経営に取り組みたいので、スマート農業を導入して効率化や省力化を図りたい（生産者）
- ・意欲ある担い手の確保と地域農業の継承には農地の大区画化や汎用化等の基盤整備が必要（生産者）
- ・熟練技術者の高齢化や労働力不足（建設業界）

役割分担

- ・生産者・土地改良区：農業の維持・発展、スマート農業の導入、換地等に係る調整
- ・市町村：地元調整、地域農業の振興、地域計画の策定
- ・建設関連業界：ICT施工に向けた検討と実践
- ・農協：高収益作物導入事例等の情報提供、産地化に向けた支援
- ・県：事業の実施、工事等に係る各種基準の整備、検討会・研修会の開催

変革後の姿

- ・農地の集積・集約化やスマート農業の加速化、高収益作物の導入等により担い手の規模拡大や所得向上が実現
- ・ICT施工の導入により高い生産性と施工品質の確保が可能

令和8年度計画

挑戦する内容

- 1 スマート農業の実装を可能とする基盤整備の推進
 - ・生産性の高い農業を実現するため、スマート農業の実装を可能とする基盤整備を25地区で実施
- 2 基盤整備を契機とした担い手への農地集積・集約化の加速化
 - ・規模拡大による農業経営の効率化を進めるため、基盤整備が完了した地区において担い手への農地集積・集約化
- 3 高収益作物などへの転換を推進する水田の汎用化・畑地化
 - ・地区推進協議会等において関係者間の共通認識を図り、高収益作物の導入を促進
- 4 高品質・安定生産を支える農地の高機能化
 - ・農作物の品質向上を図るため、畑地帯の総合的な整備を実施
- 5 農業農村整備プロセス全体でのICTの活用
 - ・ICT建設機械による施工を実践し、有効性を検証
 - ・受注者及び発注者を対象としたICT活用に向けた基礎研修を実施
 - ・3次元設計データの営農への活用検討



基盤整備後の水田
(弘前市三省地区)



ICT活用に向けた現場見学会

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・生産者や関係団体等とスマート農業や情報化施工の取組状況、普及に向けた課題等について意見交換する検討会を開催し、その対応方針等を検討（年2回程度）
- ・ほ場整備事業の実施予定地区において、地域の営農構想について話し合い、高収益作物導入に向けた営農計画等を検討（随時）
- ・営農構想発表会を開催し、新規にほ場整備を実施する地区の農業者による事業を契機とした新たな営農構想を聞き取り（2月）